



水に霜柱、、、冷たい! でもおもしろい!

★2学期終了 本日をもちまして2学期が終了となります。充実した1日1日を過ごし、また、運動会、

高尾山遠足、いもほり会、焼きいも会、秋祭り、保育参観、クリスマス会といった様々な行事を経験し、子ども達も大きく成長することができました。保護者の皆様には、日々の生活面や行事、コロナ対策などにおきまして、あたたかいご理解とご協力をいただきありがとうございました。皆さまからの励ましのお言葉や「信頼をいただいている」という安心感が、教職員の一番の支えとなり明日の保育への活力となります。

3学期も教職員一同、この環境を活かした教育の質を高め、子ども達の更なる成長のため、努力してまいります。明るる年も、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。2023年が、子ども達、そして皆様にとりまして、佳い年になりますようお願い申し上げます。

創造と挑戦を育む園庭づくり ～新しい遊具

寒さも気にせず冬ならではの遊びに夢中になる子ども達。田んぼ、池、水たまりに張った氷を素手でつかみ陽光にかざしたり、霜柱を踏みしめる音を楽しむなど、感性豊かに自然の遊びを満喫しています。

さて、9月に箱形の遊具が園庭に設置されましたが、年長さんの発案と投票により、「ブロックハウス」という名前に決まりました。(他の候補「アソボックス」「シカクチック」も魅力的な名前ですね!) 親しみやすい名前で、遊びがより豊になっていくことを期待しています。さらに、アスレチックとロングすべり台の間に、「吊り橋」と「木製ジャングルジム」が設置されました! これによりアスレチックからすべり台までを一体的に遊ぶことができるようになりました。早速、木製ジャングルジムに何度も挑戦したり、吊り橋を恐る恐る渡ったりと、個々のペースで遊具を楽しんでいます。



本園は広い園庭もさることながら、斜面の地形や自然を大切にしながら園庭の遊び場を作っています。先日の鉄腕クラブでは、アスレチックに繋がる土の斜面に大きな丸太を9個設置しましたが、こうしたちょっとした工夫でも遊びが豊かに変化していきます。

また、「Yurikagoの園庭は優しい色合い(アースカラー)が多いですね?」という声を頂くことがあります。確かに本園ではパステル調の遊具等は置いていません。これは「自然に無い色は使わない。花の美しさを引き立たせるため。園児のオレンジ運動服やカラー帽子が判別しやすいように」などの考えによるものです。入園のパンフレットにもある「ありのままの自然、ありのままの笑顔、ありのままの心」というコンセプトの通り、自然の中で色彩感覚を含めた豊かな感性を育むことが望ましいと考えています。

園庭づくりにゴールはありません。遊具業者から購入して設置したら終わり、、、ではなく、園児がどのように遊ぶかを観察しながら安全を見極め、より主体的に遊び込める環境を作っていきます。(学研『ほいくあつぷ春号』に、「主体性と安全対策」について掲載しています!) ⇒

幼児は「遊びと生活」を通して学び、成長していきます。そして園庭はその効果を最大限発揮できる教育環境です。子どもの創造や挑戦が、私達大人の想像と期待を超えていく限り、Yurikagoの園庭は進化し続けることでしょう。



『ほいくあつぷ春号』



●年長の投票により呼び名が決まった「ブロックハウス」 ●「板登り」もリメイク ●念願の「わらの家」も完成(園庭の剪定枝と年長が育てた稲わらを使用。「3匹のこぶた」ごっこができるかな!?)

☆クリスマス会

楽しみにしていた「クリスマス会」。ホールの大画面でクリスマスの読み聞かせ。そしてサンタさん登場！プレゼントを受け取り、集合写真の撮影、、、子ども達も「ありがとう」、「サンキュー」など1人1人元気に挨拶をしていました。給食もクリスマスメニューで、楽しいクリスマス会になりました！



☆クリスマス制作



☆七国小学校の2年生と交流

七国小学校の2年生が今年2度目の来園をされました。1回目の訪問を踏まえ、感じた疑問や質問に園長が答えるという形でした。幼稚園の仕事内容、やりがい、規模など、様々な内容でしたが、一生懸命考えてきた様子が伝わってきました。

その後、在園児と一緒に園庭の遊具で遊んだりドッジボールをしたりと、園児にとっても有意義な時間を過ごすことができました。特に来年1年生になる年長さんからは、「どうしたらドッジボールが上手になるの?」、「小学校に行くために何を頑張ればいいのか?」などの質問があり、小学生からボールの投げ方や捕り方のコツを教えてもらったり、「小学校ではメリハリが大事なんだよ!幼稚園で頑張っていれば大丈夫だよ!」などの心強いアドバイスももらいました。殆どがYurikagoの卒園生だったこともあり、「立派なお兄さん、お姉さんになったな〜」と感心させられました。3学期は年長さんが七国小学校を訪問できるよう準備を進めているところです。

「小1プロブレム、小1ギャップ」が叫ばれて久しいですが、幼小双方の垣根を低くし、子どもも大人も行き来し合える関係や環境づくりが、子どもや教職員にとって大切だと考えています。

また、幼小接続をより円滑にするため、文部科学省が「幼保小の架け橋プログラム」を策定し、現場で実践が進められようとしています。1月11日の幼稚園協会研修日には、架け橋プログラムの策定に委員長として関わってこられた無藤隆先生(※)に本園にご来園いただき、ご指導いただくことになっています。※無藤隆先生…白梅学園大学名誉教授。幼稚園教育要領作成に中心的に携わる。



☆大掃除



おもちゃ、椅子、ロッカー、床の雑巾がけなど、「ありがとう」の気持ちを込めて、みんなで協力しながら年末の大掃除を行いました。

年少 クッキング ～フルーツゼリー～



年少さんは初めてのクッキング。フルーツを丁寧にに入れて作ったゼリーは美味しかったね！

★年長 陶芸制作～野焼き

年長さんが園庭の土で作ったお皿。3週間ほど乾かし、森の広場で半日かけて焼き上げました。割れないよう徐々に火に近づけながら温度を上げていき、世界で一つだけのお皿が完成！



★年長 プラネタリウム

年長さんは八王子市こども科学館のプラネタリウムに出かけました。科学館の感染対策により、クラスを2日間に分けて参加しました。満天の星空や、星座のお話に皆夢中！ 科学遊びコーナーも楽しみました！



★自然体験プログラム(生き物教室、森の楽校)

「自然体験プログラム」として、お2人の先生にお越しいただき、様々な「自然の不思議」について教えていただきました。

●佐々木隊長(プロナチュラリスト佐々木洋氏)の「生き物教室」 <年中・年長対象>

いつも生き物についてご指導いただいている佐々木隊長。生き物クイズに子どもたちも夢中！殆ど正解だったので、佐々木隊長も驚いていました！



●大石康彦先生(森林総合研究所 多摩森林科学園)の「森の楽校」 <年長対象>

かれこれ20年近くにわたり、本園の自然教育や体験教育をご指導いただいています。この日は森のステージで、ドングリと森に棲む生き物との関係などについてお話をいただき、子ども達も先生の興味深い話に引き寄せられるように真剣に聞いていました。その後、森を歩き、宝物をたくさん発見しました！



★12月の様子



年少さん、、、いろいろな楽器に親しんでいます!



年長さんがモルモットの『ショコラ』のお世話の仕方を年中さんに伝授! お掃除の後にはスキンシップも大切ですね!



年少さん、麦踏み。踏みお踏みほど元気に育つね

年長さん、ブロッコリー収穫

柵田で氷あそび



うさぎ組さん、「こならじいさん」で森遊び!「大きい木だね!」

年中さん、葉っぱのベッドで「気持ちいい!」



年長さん、落ち葉を熊手で集め、葉っぱのプール(堆肥場)に入れたり、落ち葉のダイビングを楽しんだり!



柵田の斜面でゴロゴロ遊び

年長さん、「わらの家」づくり

2023年も佳い年になりますよう・・・